

三心を磨く

学校だより NO. 11
平成30年 5月30日(水)発行
須坂市立東中学校
文責：金井勝久(教頭)
<http://www.azuma-school.ed.jp/>

◇◇ 第1回 「学校運営委員会」が行われました！ ◇◇

5月28日(月)、本年度「第1回学校運営委員会」が行われました。

長野県では、これまで築きあげたきた「学校と地域が連携して子どもを育てる取り組み」を土台にして、新たに地域住民が「学校運営参画」「学校支援」「学校評価」を一体的・持続的に実施していく取り組みを「信州型コミュニティスクール(信州型CS)」として、平成29年度からすべての学校において実施しています。

東中学校では、これまで行われてきた「学校を支援する取組」を土台として、「学校」と「地域に住む皆さん」や「各種ボランティア」の皆さんが話し合う場、「学校運営委員会(東中学校運営委員会)」を設立し、昨年度より行っています。本年度は年4回の委員会を予定し、学校の様子や生徒たちの声をお聞きいただき、これからの学校運営に生かしたいと考えています。

☆第1回の協議内容より

1 生徒会三役への質問・助言

生徒会正副会長が、本年度の生徒会活動について発表。生徒会スローガンの具現に向かって各委員会が「時間・三心清掃・歌声・健康・福祉」を1本ずつ、計5本柱を立てて挑むこと、すべての活動で「縦割り」の活動の充実を図ること、課題は全員参加・全校100%達成であると発表した。



- ・自信にみなぎり、とても爽やかな発表であり、とても気持ちよく聞けた。他の学校にも薦めたいくらいの発表であり、内容であった。皆さんの活動をより充実させるためのアドバイスとしては、目標を決め、一致団結して進めていくためには、『目標の意義をみんなで確認すること』が必要である。まずは全校生徒が、『目標を共有すること』を大切にしたい。例えば、アルミ缶回収であれば、何のためにアルミ缶回収をするのかが重要である。全員参加が目的なのか、集める量や金額が重要なのか、集まった金額で何をするのか・購入するのかなど、そういうことをみんなで共有することが大切である。それによって意識が変わってくる。
- ・生徒の皆さんに2つのお願いがある。1つ目は、東中伝統の「コスモス街道」についてである。



コスモス街道で、カンナを育てていることの意味を、橋 凛保さんが進めている「平和のためのカンナ・プロジェクト」の願いを、ぜひ世界に発信して欲しい。コスモス街道に咲くカンナの花を通して、東中が世界にむけて「平和を訴える学校」になって欲しい。

2つ目は、地域の宝物を大切にしたい。改訂された「わたしたちの須坂市」には、仁礼地域にある『石小屋洞穴』から出土した土器のことが載っ

ている。これは約 1300 年前に、この地域に生きた先祖の生活の跡である。また、須坂市内に 100 くらいある文化財のうち、30 ほどがこの仁礼・豊丘地区のもの。地域の宝物を知り、大切にしてほしい。

2 学校経営・グランドデザイン・学校評価・学校の様子などについての質疑応答

- 平成 29 年度の学校評価のアンケートを見させてもらった。すべての項目において著しい向上、改善が見られている。昨年度も素晴らしいと思ったが、さらによくなっている。特に、自主学習の項目は、65%から80%に上昇しているが、どんな取組があったのか。
- 最初は、イラストを描いて「美術の自主学習」というノートもあった。職員は、まずそれを受け入れ、認めながら、さらに自分にとって必要な学習をするように、質を高めるようにとアドバイスをしてきた。その積み重ねの結果だと思う。
- 現在、「1 週間の間で自主学習 5 ページ」という課題になっている。他の学校の実践を取り入れ、「克服」「習得」「発展」という 3 つのタイプを示した。ただ「やりなさい」と言っても、どうしたらいいのかわからない。そこで、モデルを示したのだが、その成果なのかも知れない。

3 学校への要望やご意見

- これまで、部活動が忙しいということで、地域の行事に中学生があまり参加して来なかった。例えば、仁礼地区には「少年神楽」があって、小学校 1 年生から 6 年生までかなり力を入れて頑張っている。月 2 回の練習をしているが、中学生はほとんど参加していない。亀倉地区にも神楽がある。そういう地域の文化が継承できるようにしてほしい。中学校でも、地域の文化のことを知ってもらい、大切に考え、生かしてほしい。かつて、文化祭で神楽を披露したこともある。そういうことがまたできるとよい。
- 中学生が、部活を理由に地域の活動にあまり参加しないということだが、ある学校では、部活ごとに地域の活動に参加するという取組をしている。大会や練習などの計画もあると思うが、部活単位で地区行事に参加するというのも、これからはできるのではないか。
- まず、地域の活動に参加することが大切。7 月の少年神楽をぜひ見に来てほしい。神楽のような継続した活動は難しいと思うが、神輿などは単発参加でも十分できる。まず参加するところから始めて、将来は地域の文化を継承していくようになってほしいと強く願っている。
- 自分は「阪神淡路大震災」の時に、神戸にいて被災した。最近、地震がよく起こり、震災は身近なことだと思っている。今年の P T A 講演会は、木村紀夫さんをお招きして、「震災を経験して」というタイトルで、親子講演会を企画している。木村紀夫さんは、東日本大震災で被災し、大熊町から白馬に移ってきた方だが、行方不明の娘さんを探しに大熊町に行って遺骨探しをしていらっしゃる。方だ。「親子講演会」だが、ぜひ地域の方にも聞いていただきたい。



※学校運営委員の皆様は、様々な立場、そして角度から活発にお話をしてくださいました。

今回は、生徒たちの頑張る姿にエールやアドバイスをいただき、学校が変わっていく姿をお認め・応援、そして評価いただけました。ご意見を参考にさらに東中学校の進化をめざします。